８月定例記者会見　会見録

令和元年(2019 年) 8 月 1 日（木）11:00～11:30　庁議室

質疑応答

■つくば市自殺対策計画について

記者

「自殺対策計画」は、全ての市町村に策定義務があるということですが、今回の計画において、つくば市独自の対策があれば伺います。

健康増進課長

つくば市は「若年層（20 歳代）の自殺死亡率が高い」※ため、「若者」に関わる自殺への対策を、重点施策と定めています。若者が相談しやすい相談窓口の周知や妊産婦・子育てをしている保護者への支援の充実、若者が利用しやすい就労相談窓口の周知といった事業内容が特徴です。

※10 万人あたりの自殺死亡率（平成 25～29 年平均）は、全国平均が男性 26.2、女性 10.2 であるのに対し、つくば市の平均は男性 31.4、女性 10.4。

（出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2018)」）

■「つくばＲ８地域活性化プランコンペティション」最終審査結果の報告及び今後の事業展開について

記者

採択プランをこの 4 件に絞ったポイントと、支援金(200 万円～50 万円)に幅がある理由を伺います。

周辺市街地振興室長

審査基準は、地域性、企画力、実現性、継続性の 4 点です。それに加え、当日参加していただいた

一般観覧者の投票により、４件を決定しました。支援金は、各プランの応募時に提出された収支計画を精査し、総額 400 万円の配分調整を行い、決定しています。

記者

地域活性化の取組について、地域間での温度差を感じます。その温度差を埋めるために、市長は今後何が必要であると考えていますか。

市長

私は地域によっての温度差はそれほど感じていません。現在、各地域で地域活性化を図るため、勉強会を開催していますが、参加されている皆さんは、非常に熱心です。

恐らく、地域ごとに取組を始めた時期に差があったため、結果としてそれが温度差と感じたのだと思います。

今回、谷田部市街地と小田市街地のプランが採択されましたが、これらの地区は早くから取組を始めていたため、提案内容も綿密であったと感じます。今後は、各地域がどのような取組をしているかを知ることも大事であるため、このような「実証事業」の成果を共有する場として、「地域会議」を開催したいと考えていますし、さらに各地区において、まちづくりのための協議会の設立が進んでおり、そのような取組も市では支援していこうと考えています。

記者

今回の「実証事業」を他の地域に知ってもらうための施策について伺います。

市長

先ほどにも述べましたが、来年２月に「地域会議」を開催し、「実証事業」の成果及び今後の継続的な展開を報告します。また、各市街地での勉強会も定期的に開催していきますので、これらの情報を共有するタイミングは随時あると思います。

記者

採択者は、来年度以降、これらの事業を自立化して進めていくということになるのですか。

市長

基本的にこれらの事業は、補助金がなくなっても続けていただく、長い目を持ち、地域の方々と一緒に地域を活性化していくことを前提として採択しています。まちづくりは、一過性のものではなく、地域の方々が他の地域の方々と情報を共有し、対話をしながらじっくり創っていくものだと思っています。

採択された皆さんには、この点を念頭において事業を進めていっていただきたいです。採択者の皆さんとお話しする機会がありましたが、幸いその認識を十分お持ちでしたので、どのプランも今年だけの事業や補助金がなくなって終わるような事業ではないと思っています。

記者

採択プランの４件について、市長の感想を伺います。

市長

採択にあたっては、審査員と観覧者で決定したため、私は審査には一切関わっておりませんが、『わわわやたべや「からくり伊賀七と進める市街地活性化運動」』と『「小田山を芝桜でキレイに飾ろう」プロジェクト』は、谷田部と小田という市街地のエリアに特化しています。どちらも周辺市街地振興室で行っている勉強会がきっかけで、「自分たちの地域を自分たちで本気で支えていこう」という強い意志があり、かつ、内容も興味深いものでした。

『Ｒ８ロゲイニング「魅力の発見と発信、賑わいの創出、マップづくりとまち歩き」』と『旅する大八車と小さなパレード』は、地域固有の資源を活かして、複数の市街地の地域復興に関わっていくことが採択された大きいポイントでした。「ロゲイニング」とは、地図に示された場所を探し出す、宝探しのようなスポーツですが、まさにそれぞれの市街地の資源を活かした企画になっていると思います。また移動式店舗となって各地区を回る「大八車」は、「このデジタル時代におい

て、アナログなスピード感で進めていくまちづくりというものを大事にしてほしい」という審査員からのコメントがありました。車で移動するだけではない、まちづくりの可能性を感じました。

記者

『わわわやたべや「からくり伊賀七と進める市街地活性化運動」』と『「小田山を芝桜でキレイに飾ろう」プロジェクト』は、谷田部市街地と小田市街地の地元の方が出したプランで、『R８ロゲイニング「魅力の発見と発信、賑わいの創出、マップづくりとまち歩き」』と『旅する大八車と小さなパレード』は、若い方や大学の研究室などの地域の外側にいる方が提案する斬新なプランでした。後者のように、外部からの知恵を地域の活性化に使うことの有用性について、どのようにお考えですか。

市長

今後のまちづくりにおいて、外部からの知恵を活用することは必須だと思います。しかも、今回は、外部のコンサルタントが持ってきたプランをいきなりやるということではなく、提案者はきちんと地域をリサーチし、また、審査の過程においても、地域の皆さんが投票をしました。今回選ばれた両プランは、地域から非常に高い支持率を得ていました。まちづくりは、外部の人材や行政だけが勢いで行うのではなく、それらと地域の方々とのコミュニケーションを踏まえた上で、成立してくるものだと考えています。地域活性化を進めるためには、さまざまなコミュニケーションが生じます。その上で、新しい視点やアイディアが生まれることが、地域にとっての価値につながるのだと思います。そのような過程を含めて今回の取組全てに価値があると思っています。

■歴史・文化財 夏休み自由研究相談室の開催について

記者

この相談会に対応する文化財専門員は市の職員ですか。また、当日の対応人数や事前予約が必要かどうかを伺います。

文化財課長

文化財課に在籍する専門員 7 名が適宜対応します。予約も必要ありません。なお参加費は無料です。

記者

昨年度の参加者数を伺います。

文化財課長

小学生 6 名、中学生 1 名、高校生 1 名の計 8 名です。

■第 25 回参議院議員通常選挙の投開票事務について

記者

要望ですが、今回つくば市で起きた確定投票数の「不受理」欄に誤りがあったというトラブルについて、茨城県選挙管理委員会のみのプレスリリースだけではなく、つくば市選挙管理委員会もつくば市記者会にプレスリリースを行うなど、つくば市を担当する記者にも公表していただきたいです。

選挙管理委員会事務局副局長

今回の件については、23 時頃に茨城県選挙管理委員会から、つくば市選挙管理委員会に確認の依頼があり、24 時頃につくば市選挙管理委員会が誤りについて茨城県選挙管理委員会に報告しました。それを受け、3 時頃、茨城県選挙管理委員会がプレスリリースを行いました。なお、つくば市選挙管理委員会からはプレスリリースを行いませんでした。

市長

選挙事務は間違いがあってはいけないものです。情報共有の仕方については、今後の打合せで検討したいと思います。

記者

つくば市の開票作業は、他自治体に比べ遅いイメージがあります。朝までかかることもあるそうですが、翌日の業務がある職員にも大きな負担となっているはずです。何か対策をお考えですか。

市長

今回はトラブルでご迷惑をおかけしました。また開票作業についてですが、他自治体と比べてそれほど遅いという認識はしておりませんでした。選挙管理委員会においても、他自治体の事例を勉強しながら準備をしていますが、今回の事態を踏まえ、これからできることを今後話し合っていきます。

終了